

ピーマンの台木「グランバギー」の収量性

農業研究部・果菜類チーム

1. 研究の背景

近年猛暑日の増加等による気候変動の影響により、ピーマンの収量が減少傾向にある。そこで、収量向上を図るため、ピーマンの台木の「グランバギー」が収量に与える影響を検討した。

2. 研究成果の内容・普及のポイント

「グランバギー」は「さらら」や「TSRさらら」の自根苗より商品果収量が10%以上多く、苗代を控除した販売額も10%以上高かった。これは、8月以降の単価の高い時期に商品果収量が多いことが影響している。また、「グランバギー」は「さらら」や「TSRさらら」の自根苗より外品率や尻腐果発生果率が低い傾向が見られた(データ略)。

商品果収量と単価の推移



収量、販売額

試験年度	ハウス間口	台木	穂木	商品果収量 (t/10a)	自根比 (%)	販売額 (千円/10a)	苗代 (千円/10a)	販売額 －苗代 (千円)	自根比 (%)
2022年	3m	グランバギー	さらら	19.6	126	6,708	268	6,439	121
		台木A	さらら	18.9	122	6,459	268	6,191	117
		(自根)	さらら	15.5	100	5,458	157	5,301	100
2023年	6m	グランバギー	TSRさらら	10.5	116	4,399	201	4,197	113
		台木A	TSRさらら	10.4	114	4,367	201	4,166	113
		(自根)	TSRさらら	9.1	100	3,818	118	3,700	100
2024年	3m	グランバギー	TSRさらら	11.7	111	5,698	268	5,430	114
		台木A	TSRさらら	10.4	99	5,007	268	4,739	99
		(自根)	TSRさらら	10.5	100	4,934	157	4,777	100

・「グランバギー」：タキイ種苗株式会社、「さらら」、「TSRさらら」：公益財団法人園芸植物育種研究所
商品果収量=A品重量+B品重量
単価：全農ピーマン月別販売実績参照
販売額：月別商品果収量 (kg/10a) × 月別単価 (円) の合計で算出
収穫期間：2022年4月22日～11月28日、2023年4月26日～11月6日、2024年5月2日～11月8日
栽植密度 6mハウス：714株/10a、3mハウス：952株/10a

3. 期待される効果

「さらら」と「TSRさらら」は台木を「グランバギー」にすることで増収が期待できる。

4. 担当機関連絡先

大分県農林水産研究指導センター農業研究部 果菜類チーム
TEL：0974-28-2081
住所：豊後大野市三重町赤嶺2328-8